

今年度の研究主題 「学ぶ意欲を高め、表現できる生徒の育成」

～ 言語活動の充実を通して ～ 3/3年次

1. 今年度の方針

本校では平成26年度までに、『主体的に学習に取り組む生徒の育成』を研修の主題として「基礎基本の定着を図る指導法の工夫」を行ってきた。基本的・基本的な知識や技能を身に着けることで、主体的に学習に取り組む態度を養うことができると期待し、『反復学習』、『視聴覚機器の利用』、『生徒同士が教え合う場面の設定』を取り入れた授業を実践してきた。

その反省では、「基礎基本の定着は今後も必要である。」「自ら考えたり、発想を広げることが苦手である。」「自分から前へ出て行動することに慣れていない。」などが挙げられた。これらの課題を克服していくため、『言語活動』を充実させていくことが必要だと考え、平成27年度からの研修主題として設定している。教科指導において『言語活動』に取り組む場面を増やすことで、自分の考えをより客観的にとらえることができ、ひいては基礎的・基本的な知識や技能を習得することが期待される。また、自他の考えを交流することで、達成感を持つこともでき、学ぶ意欲も高まっていくと考えられる。

平成27年（1年次）は、言語活動の定義を再確認した。そして、言語活動を授業に積極的に取り入れる（増やす）ことに重点を置いた。（2つの授業研と各教科実践レポート作成）

平成28年（2年次）は、授業者が意図的に言語活動を入れるようになった。また、生徒に身に付けさせたいことを明確にし、そのための言語活動を取り入れることを心がけた。（3つの授業研）それらを通じて、生徒の中にも自分の言葉で表現する気持ちが育ってきた。同時に、平成31年度からの道徳完全実施に向けた授業実践の蓄積（1年目）を始めた。（学年単位で、各学期1つずつ）

そのような実践の積み重ねを基盤とし、今年度は、道徳と言語活動を中心に研修を進める。

①道徳の授業実践（各学年） ②言語活動を取り入れた授業の実践交流（全員）

2. 今年度の研究を進めるにあたって

(1) **道徳**：グループ編成は、学年単位（3つ）で授業研究を行う

言語活動：各教科で授業実践する

(2) - 1 研究の進め方（**道徳**）

- ① 1 学期
 - ・ 言語活動を取り入れた授業の研究
 - ・ 指導方法、内容などの確認、指導案作成にあたっての共通理解
 - ・ 指導計画（授業計画）と検討、授業計画日程調整
- ② 2 学期
 - ・ 授業計画（指導案）を作成
 - ・ 学年グループで1つ授業研究を行う（全校で参観できる態勢、事前研・事後研の充実）
- ③ 3 学期
 - ・ 研究のまとめ
- ④ 通 年
 - ・ 学年単位で、各学期1つ以上授業を行い、学年内で研修

『今年度の道徳・学活の年間計画について（教務：教育課程係）』を参考に、授業を行い、新学習指導要領移行に備えます。

(2) - 2 研究の進め方（**言語活動**）

- ① 1 学期
 - ・ 言語活動の理論研究
 - ・ 生徒の実態アンケート
 - ・ 言語活動実践交流期間についての共通理解（進め方）
- ② 2 学期
 - ・ 言語活動実践交流の時期や内容の検討、実施（各教科）
- ③ 3 学期
 - ・ 研究のまとめ
- ④ 通 年
 - ・ 様々な学校行事や全校行事、学年行事等において、生徒が自分の言葉を使って、わかりやすく発表する場面を意図的に設定してその変容を教育活動に生かす。
 - ・ 授業の中でもペアやグループでの話し合い活動を積極的に行い、多面的・多角的・批判的に考えたり、他者と協力したり、尊重する力を養っていく。